



プロジェクトを見える化・現場の声が情報源・わかりやすく編集

夢で羽ばたく田麦山。夢は、見るもの？ つくるもの？ 誇りは、あるもの？ 育てるもの？ それとも、思い出すもの？ わき出すもの？ 答えはあなたの中に。

## ついに復活！新保広大寺、はねおけさ。 代々伝わってきた粋な踊りを受け継ぐ！

二〇一二年十月二十三日(日)  
田麦山収穫祭

### 「新保広大寺」

●新保広大寺を踊れるのは日本で一人！？



復活のきっかけとなったのは、地域資源調査の歴史文化調査班の熱い思い。昔はハレの日は必ず踊っていたという伝統芸能を復活するべく、踊れる人に声をかけ、音源を探しました。最初は、一人二人しか踊れなかったのに、少しずつ仲間が増えていきました。

練習の成果を発表する機会となったのは、田麦山収穫祭での一場面。演目は「新保広大寺」と「はねおけさ」です。初舞台の人も多いい中、少し照れながらもピシッと引き締まった面持ちでの登場でした。

まずは、おけさの節に合わせて、星野誠一さんが堂々と「新保広大寺」を披露。日本人としての粋を感じさせる美しく、キレのある舞。初めて見る踊りに、子どもも大人も目を奪われていました。今回は踊りませんでした。「くみおけさ」「花笠踊り」も発掘されていて、全部見ることができる機会が望まれます。

その後は、赤い袴に身を包んだ8人の踊り子たちによる「はねおけさ」。ひよっと回ったり、大きな手の振りがあっ

たり、難しそうだけれど、楽しそうな踊り。8人のイキイキとした様子に、思わず飛び入り参加したくなるほどでした。

実は、日本中で新保広大寺を踊れるのは、今や星野誠一さんただ一人(?)という可能性もあります。次の世代に引き継いでいかないと、新保広大寺は、途絶えてしまうという現状があります。田麦山で生まれ育った誇りとして、子どもたち、そのまた子どもたちにも受け継いでいきたいものです。

### 「はねおけさ」

●あなたも一緒に踊りませんか



段階を踏んで施設管理の在り方を問い直し、  
関係者との協働で、  
新しい拠点整備を目指す。

行政との協議

ステップ -1

組織の立ち上げ

ステップ -2

利活用の計画づくり

ステップ -3

具体的な拠点ハード整備

ステップ -4

拠点づくりの計画づくりを行なう第

三回目の話し合いが行われました。第

二回のワークショップを元にまとめら

れた「拠点の将来イメージ」を実現さ

せるためには、何をしたらいいのでし

ょう。その方法・アイデアを出し

合い、4つの方針にまとめあげ

ました。

次回は、これらの具体的

な行動を時間軸に落とし、

スケジュール化します。

どなたでもご参加できま

すので、ぜひあなたのご意

見をお寄せ下さい。

この将来イメージを  
実現させるための  
具体的な方法・アイデアは  
何だろう？

拠点の将来イメージ

地域が責任を持って経営する  
住民のための地域センター

住民の健康  
を維持する

子どもたちの  
居場所

モノづくり  
工房

住民の  
交流サロン

各種イベント  
実施会場

宿泊施設



# 組織 利活用 改修 の計画づくり

2011年11月14日  
拠点づくりワークショップ



## 方針2 実現に向けた組織づくり

方策1 新しい組織案の作成 方策2 施設管理者の選定 方策3 協力者の人材リストをつくる

## 方針1 関係者との協議、資金集め

方策1 真剣に議論する場を設ける 方策2 行政(市)との話し合いを始める 方策3 具体的な資金集めを始める



## 今後の予定

### 12月6日(火):拠点づくりワークショップ

時間：19：30～21：00

場所：田麦山公民館

定例会が拠点づくりワークショップとして田麦山公民館を会場にして開かれます。ぜひ皆さまご参加下さい。どなたでもご参加が可能です。

### 1月28日(土):デザイン策定成果発表会と第2回学習会

田麦山連絡会で進めてきた「田麦山復興デザイン策定事業」の発表会を行います。また、同時に第2回の学習会を開催します。第1回で大好評だった結城登美雄さんをお招きして、地域が運営する拠点の在り方について学びます。

※田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクトのブログもご覧ください。  
<http://tamugiyama.exblog.jp/>



## 編集後記

11月の定例会。会場になっている田麦山公民館に着くと、正面の部屋から楽しそうにおしゃべりをしている音が聞こえてきました。邪魔にならないようにちよつと覗くとおいしいものを囲んでお茶を飲んでいらっしやいます。手づくりのものを持ち寄って、お茶とおしゃべりを楽しむっていいですね。こういう使い方を誰もが気軽にできるよう運営方法を考えたり、さらに気持ちよく使える場に改修したりと…。夢は案外、現実に即したのもかもしれません。



**資源。パンフレット策定、公民館を中心とした拠点づくり計画策定などが進んでいます。皆で知恵を出し、考え、協力し、活力をつくっていきましょう。**

田麦山連絡会

大淵 公男

連絡会メンバーコラム



中越大震災から7年が経過しました。この間、皆で協力し力を合わせて震災を乗り越えてきました。その原動力は、培われた地域コミュニティによる団結心と、ふるさとへの愛着心からではないでしょうか。復興も進み、その感謝の心を大切にしながら更なる地域復興（再生）への歩みを進め、更に少子高齢化にあって、地域の活力がより一層求められています。こうした中で震災復興基金事業を導入し、田麦山の将来に向けた地域復興デザイン策定に取り組んでいるところです。これに向けて、住民全員（500人）

の夢や希望を描いた写真の「パネル化（現在約300人達成）」、田麦山の資源「歴史文化」「食」「自然」調査を行っています。伝統芸能「はねおけさ」の復活や持ち寄りによる「一品料理活用」などはその成果です。また公民館を拠点とした「地域起こし」や子どもたちの「ワークショップ」、先進地視察（村上・高根集落、柏崎・北条など）による研修を行いました。その成果を踏まえ、今、各資源班（歴史文化、食、自然）による田麦山の資源パンフレットの作成作業を進めています。パンフレットは、田麦山の地名の由来

や歴史の歩み、大杉と熊野神社、また伝統芸能や恵まれた自然（田、ブナ林、植生、野鳥など）、地元食材による郷土料理などを紹介し、これを地域皆で共有しながら、その保存と活用を図るとともに田麦山の特徴を活かした情報発信として利用されます。更に、公民館を①住民の健康の場（スポーツ、キャンプの拠点、福祉医療の場）②子どもたちの居場所（子どもたちの遊び、学びの場）③ものづくり工房の場（モノづくり、アーティストの工房、特産品の工房）④住民の交流サロンの場（食堂

と居酒屋、お茶のみができるサロン）⑤各種イベント会場（様々なイベント）⑥宿泊施設（宿泊ができる拠点）として描き、田麦山の活性化・地域起こしに向けた真剣な討議と、描いたデザインを具体的にどのように取り組み、実現していくのようか検討しています。実現には様々な課題、困難がありますが、地域皆で知恵を出し、皆で考え、皆で協力し、活力のある地域づくりに向けて頑張っていきましょう。